

魅力ある地域づくりに関する特別委員会 管外調査

令和5年8月22日（火）～23日（水）

1 宇都宮大学地域デザイン科学部附属地域デザインセンター（CRD）（栃木県宇都宮市）

【調査事項】

地域デザインセンターを中心とした地域連携の推進について

【調査目的】

京都府における大学と連携した取組の参考とするため、地域デザインセンターを中心とした地域連携の推進について調査する。

【調査内容】

宇都宮大学では、学内資源を見直して選択と集中を行い、各地域の強みを活かしたまちづくりを支える人材を育成するため、平成28年に文理融合した新学部「地域デザイン科学部」を設置し、国立大学として地域活性化の中核的拠点となる使命を果たすための機能を強化した。地域デザイン科学部では、公共政策、福祉のまちづくり、都市計画、防災といった「まちづくり」に関わる分野横断の幅広い知識と専門技術を文系理系の枠にとらわれず創造的に学べ、地域の課題を理解し、各地域の強みを活かしたまちづくりを支える専門職業人（まちづくりのプロ）を養成している。また、地域デザインセンターでは、地域デザイン科学部の附属機関として、地方自治体、企業、NPO等の多様な主体との連携・協働のコーディネーションを行う機関であり、地域に根差した研究や教育を支援・推進することで地域社会に貢献している。

地域デザイン科学部では、栃木県内の地域パートナー（自治体や団体等）が抱える地域の課題に対し、地域探索やヒアリング調査などを実施し、収集したデータを分析して、問題の明確化や地域の課題に対する解決策を提案する地域プロジェクト演習を行っており、①地域パートナー、②地域デザイン科学部教員、③地域デザインセンターの3者が連携し、学生の演習をサポートしている。地域デザインセンターでは、教員を中心とした共同研究や学生の地域活動の支援を行うほか、教育面だけでなく学生の地域活動が多様化していることから、学部学生を中心とした地域デザインセンター・ユースを設立し、地域や産業界と連携した地域連携プロジェクトを推進するとともに、学生による相談・コーディネートや学生目線の情報発信、学生のための研修・勉強会などを行っているとのことであった。

【主な質問事項】

- ・学生の就職先や就職の支援について
 - ・学生の卒業後の地域との関わりについて
 - ・地域プロジェクト演習の流れやテーマについて
 - ・地域デザインセンターの体制について
- など



調査事項を聴取

2 栃木県総合運動公園（栃木県宇都宮市）

【調査事項】

とちぎ国体のレガシー継承を通じた地域活性化について

【調査目的】

京都府におけるスポーツを通じた地域活性化の取組の参考とするため、とちぎ国体のレガシー継承を通じた地域活性化について調査する。

【調査内容】

栃木県で令和4年に42年ぶりに開催された第77回国民体育大会「いちご一会とちぎ国体」及び栃木県で初めて開催された第22回全国障害者スポーツ大会「いちご一会とちぎ大会」では、全国から来た多くの選手、関係者、観客をボランティアや民間団体、企業などの力を結集し出迎え、「夢を感動へ。感動を未来へ。」のスローガンどおり、未来につなぐ大会となった。

これらの有形・無形のレガシーを継承し、スポーツを活用した地域活性化を推進するため、「とちぎスポーツの活用による地域活性化推進戦略」を策定し、東京2020オリンピック・パラリンピック及びいちご一会とちぎ国体・とちぎ大会の開催によるスポーツに対する県民の機運向上や県民総スポーツの推進拠点である総合スポーツゾーン（栃木県総合運動公園）の完成、全国的に見ても豊富なスポーツ施設やプロスポーツチームの状況などの強みを活かしたスポーツイベント・大会・合宿等の誘致やスポーツアクティビティを目的とする来県増加など、スポーツツーリズムによる地域活性化を推進している。

また、令和5年7月31日には、これらの有形・無形のレガシーを継承するため、官民連携の栃木県スポーツコミッションを設立し、スポーツツーリズムを推進し、特にスポーツを通じた地域活性化と県内外の交流人口の拡大に取り組むとのことであった。

【主な質問事項】

- ・人口規模の小さい市町村における国体で実施された競技に関係する施設の今後の維持管理について
- ・栃木県総合運動公園における総合調整について
- ・栃木県総合運動公園内の施設の利用状況について

など



調査事項を聴取



カンセキスタジアムを視察

3 一般社団法人奥むさし飯能観光協会〔現地視察：喜多川キャンプベース〕（埼玉県飯能市）

【調査事項】

森林の間伐対策問題とサステナブルツーリズムの推進について

【調査目的】

京都府における森林の間伐対策問題などの取組の参考とするため、森林の間伐対策問題とサステナブルツーリズムの推進について調査する。

【調査内容】

飯能市は、森林が面積の75%を占めており、全国の森林エリアと同様、森林が徐々に荒廃する中、間伐対策が課題となっている。一方、林業従事者は減少傾向にあり、今後、森林を維持管理し、次世代に継承するため、観光から何かアプローチできないかという観点から、一般社団法人奥むさし飯能観光協会では、観光庁のサステナブルな観光コンテンツ強化モデル事業を活用し、継続性の高い間伐対策プログラムの造成と既存顧客の会員組織化（オーナー制度）に取り組み、間伐対策プログラムとキャンプ場利用の定期利用（サブスクリプション）の実現によって、年会費や法人・教育機関への研修コンテンツの販売収益等による事業の収益化を目指している。

観光コンテンツを構築する上では、平成21年に全国で初めてとなるエコツーリズム推進全体構想の認定を受けたエコツーリズムで培った経験とノウハウをベースに、マーケットイン（顧客ニーズに沿った商品開発）の目線で既存資源を見直すとともに、在宅ワークの増加等によるメンタルヘルス対策の増加傾向にも着目し、これまでの単発来訪から継続来訪につながるプログラムとして、従来、一般には門戸を広げていなかった伐採・加工・植樹等の森林事業者のルーティン業務を体験する間伐対策プログラムを造成した。

「100年続く森を育てるための、間伐を知る」をテーマに川上ノ森 OWNER'S CLUBを始動させ、令和5年2月から会員の募集を始め、今年度は受入施設の拡充や受入体制の整備などに取り組むとのことであった。

【主な質問事項】

- ・ 県や市の支援について
- ・ 事業ディレクションや会員集客を担う事業者の選定について
- ・ 今後の森林×「〇〇」の取組の方針について
- ・ 飯能市におけるキャンプベースの状況について
- ・ 事業スキームについて

など



調査事項を聴取



喜多川キャンプベースを視察